



ライトバンに、カンパ物資を積みこむ主婦会役員の皆さん。やまと積まれるくらい、山のように寄せられた暖かい贈りものだった。

甘木山学園をおとすれて

福祉政策みつめよう

明るさに思わずおどろく

主婦会 平川弘子

大牟田母親連絡協議会の代表七名は、年末助け合いと交流のため去る十月十三日午後二時より車二台に分乗して甘木山学園を訪問しました。短期間の訪問でしたが母連協の呼びかけに暖かい連帯の心が寄せられ、集まった夏冬さまざまな衣類を、大小十九の段ボールに詰め、贈ることができました。

甘木山の南のふもとに在る社会福祉法人甘木山学園(石井竹乃園長)は、民間の養護施設として戦後まもなく大変な苦勞の中から設立され、昭和四十八年と四十九年に新築改築、ひととき明るい学園のたまたまの中で、園内の児童たちが暮らす、心から子供の成長を願うすにはいられませんでした。

長を願うすにはいられませんでした。それだけに歴史を物語る建物は幼稚園指導の棟として残り、卒業生の思い出の場として今も大切に使われているようでした。

さくら会が 結成される

去る十一月三日の文化の日、町内会役員さんの努力で、中央集会所において「さくら会」(三丁目老人会)の結成総会が開かれました。外山正人さんを会長とする役員(十三名)を選出。余の

名称も「さくら会」と決定。現在は毎朝午前六時四十分よりすてにゲートボールが行われており、会では一人でも多くの会員の参加を呼びかけておられます。

桜山団地では地域 道路の舗装を要求

桜山団地協議会(加地勝会長)では、「さくら会」を住民良しとするため「住民要求を集め、対市(荒尾市)交渉をはじめよう」をうたっています。

住民要求のなかで一番多かったのは、道路の問題に関するものでした。

市は本年度予算に対する要求の重点を、道路の舗装と溝蓋設置に絞っており、対市要求を開始するところですが、結果が期待されています。

企業倒産は 戦後最高

【連合】帝國興信所が十一月五日発表した十一月の企業倒産件数(負債一千万円以上)は、千三百十五件(東京商工リサーチ調べ千三百十七件)となり、戦後最大だった十月の倒産比に件数で三十六件、負債額で七八・三%の増加となった。資本金規模別では一千万円以下が全体の八七・三%と相変わらず多く、また、倒産の原因では「放漫経営」が前月に比べ減り、逆に販売不振や売掛金の回収難という「不況型」が四六・八%に増加している。

街づくりへ前進 荒尾 四小校区のたたかい

荒尾市四小校区協議会(小車透会長)の新聞、協議会だより、N.O.七二、十一月十五日発行(以下)によりますと、同協議会(以下)は、毎年十月区民の声を集めるため、毎月一回、責任部長を相手に交渉を行っています。

住民の要求三十項目。市としてそれぞれ回答してきましたが、たしかにかなりの点を善処することが約束されています。

編集部から

「機関紙」みいけについてこの頃「大分よくなった」と、ほめていた人があつた。ほかでもなく、職場や家庭、地域から率直な声が紙面にのびあがっている。何となく、地域住民が手をとり合っている感じがする。

寝起きも共に

事務職を含め四十名の先生方で指導をされていますが、とくに指導に当たっている保母の先生は、朝夕子供たちと寝起きを共にしながら、同室七八名の子供の成長に心をこめてかかっています。

人間を育てる

例えば母親が短期入院とか旅行などのために、赤ちゃんや子供の世話ができないなどの折、安心してあずけられること。また、自閉症の子供を集団生活の中で指導していく場合など、一時の入園させることも必要と

白鳩診療所を、もっと 大切に育ててゆこう

荒尾地評は、今「もっと自分たちの白鳩診療所を大切に育ててゆこう」とうたっています。同診療所は周知のようになり、もともと

空の月

リンと、行くところへ、と抱きついて泣いたあの子に、「男の子が甘えちゃおかしかな。今日までよ。明日からは家に居るからね」と、さき離しては出かけたあの子。

子離れせねば

主婦会原分会 主婦

三池芳雄で頑張った居られる方がたを主婦会で激励しよう。一週間続けて朝早くから夕方遅くまで家に居なかつたことがある。その一週間目の最後の日の朝、出て行く。泊まるところが「と、あの時

編集部